

ビデオ 通信

2017年
9月7日(木)
No.4113

月・木曜日発行
1ヶ月¥11,000(税別)
発行：飯澤 剛 編集：齋藤 浩一

ユニ通信社

〒106-0047
東京都港区南麻布 5-2-37
DEPECHE MODE 1F
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

エクサインターナショナル

MA ルームをリニューアル

4K 編集室との連携、ファイルベースへの対応
S6 & Pro Tools による “In the Box” スタイルに

（株）エクサインターナショナルはこのほど、本社・赤坂センター 3階にある MA ルームをリニューアルし、本格稼働を開始した。8年ぶりにリニューアルされた新しい MA ルームは、“4K” “ファイルベース” をキーワードに、10Gb 高速ネットワークを介して 4K 編集室「EDIT-202」と接続されたコンテンツサーバー「NEXIS PRO」にアクセスし、EDIT-202 と同じ映像を用いて MA 作業が行える。DAW「Avid



リニューアルしたエクサインターナショナルの MA ルーム

Pro Tools|HD」とコントロールサーフェース「Pro Tools|S6」をベースとした “In the Box” の制作スタイルを実現できる環境を構築している。また、増加するアニメーション関連業務のニーズにも対応した。システム設計はタックシステム（株）と朋栄（株）、施工は朋栄が担当した。同社では、新しい MA ルームの稼働によって、撮影～編集～グレーディング～MA～納品の「4K 一連作業」を提供していくほか、社内の「ファイルベース対応」を一層進めていく考え。

4K 対応編集室との連動&ファイルベース対応



新しい MA ルームのコンセプトは、“4K 対応編集室との連動” と “ファイルベース”。

同社では今年 3 月、4K 対応の Avid Media Composer v8.5.2 と Adobe CC (Premiere Pro/AfterEffects etc) および Blackmagicdesign Da Vinci Resolve Studio 12.5 などを導入した 4K60p/HDR/HD/SDR 対応編集室「EDIT-202」(←写真) を稼働させた。なお、KVM シス

テムにより、ノンリニア編集室「EDIT-203」「EDIT-204」でも同様の4K編集が可能となっている。



制作技術部 部長の田嶋雅之氏(←写真)は「4Kに対応したEDIT-202と連動し、編集～グレーディング～MA～納品の「4K」、さらには「4K/HDR」の一連作業を可能とする環境を構築したいと考えました」とする。

今回のリニューアルによって、「EDIT-202」と接続しているコンテンツサーバー「Avid NEXIS PRO」(20TB×2)と10Gbの高速ネットワークを構築している。



制作技術部 MA グループの南石和紀氏(←写真)は「4Kに限らず、HDでもローカルドライブと同等の感覚によるアクセスが可能で、編集室との連携がスムーズに行えます。これまでは編集室で作った映像をHDCAMテープに収録し、MAルームで立ち上げ直して作業を行っていましたが、今回のシステムではサーバーを介して編集室で作った映像そのままの状態でもMAができる「ファイルベース」によるワークフローが実現しました」とする。

機材選択のポイントは、信頼性の高いサポート体制



新しいMAルームでは、メインDAWとして「Pro Tools|HD」、コントロールサーフェースには「Pro Tools|S6」(S6)のほか、オーディオインターフェース「Pro Tools|MTRX」、4K映像に対応するため「VideoSatellite V8」を導入した。なお、7.1ch/5.1chサラウンド対応という特徴は継承している。

機材選択のポイントとして南石氏は、メーカーを統一することによるメンテナンスやサービスのサポート体制の充実を挙げる。

「S6とPro Tools|HDの組み合わせによって、Pro Tools内でミキシングを完結させる“In the Box”スタイルでの業務を実現しています。また、Pro Tools|MTRX(写真→)についても、従来のサードパーティ製という位置づけではなく、Avidの製品になったことで、システム全体としてメンテナンスやサポートを受けることができる。こうした信頼感、安心感は重視した

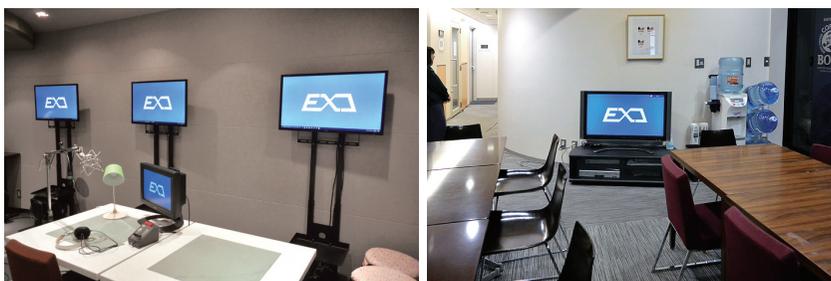


別ルームに移設されたFairLight

ポイントです」(南石氏)

メインディスプレイには民生用の4Kディスプレイを装備。編集室と同じ環境でMAができると同時に、最終的には同MAルームでの4Kクライアント最終プレビューを目指すという。

さらに、現在も保有している旧DAW「Fairlight Dream Satellite」を別ルーム内に移設し、同社事業の柱の1つである「アーカイブ」周辺作業での運用



モニターが大きくなったアナブース（左）と MA ルーム内の映像が共有できるラウンジ

などに活用している。

一方、アニメーション関連業務の増加に伴う新たなニーズにも対応した。アナブースのモニターを 17 インチ× 4 台から 32 インチ× 3 台に変更し、声優達が字幕等を見やすくした。さらに、アナブース内にカメラを設置したほか、ラウンジスペースのモニターに MA 室内と同じ映像を表示できるようにしたことで、声優とスタッフのコミュニケーションアップを図る。

ファイルベース・ワークフローをさらに訴求



新しい MA ルームが本格運用を開始して、約 1 ヶ月が経過したが、南石氏は〈従来の Euphonix System5 を使いながら「こうなったらいいな」と思っていたことが全て反映されたという印象です。映像のジャンルを問わず、非常に使いやすいと思っています。NEXIS を介したファイルベースによる編集室との連携も順調で、テープを使うことがほとんどなくなりました。今回のリニューアルに

よって、お客様のニーズに応えられる MA に近づけられたと自負しています。どんどん使っていきたい〉とする。

また、制作技術部 MA グループの星野早紀氏（写真→）は〈特にファイルベースの長尺ものについて、非常に使い勝手が良いと感じています。以前は実時間の 3 倍かかっていたワーク起こしが、現在ではおおよそ実時間で済むようになりました。これまではマシンのパワーの差で難しかったような業務にも挑戦できればと思います〉と語る。



一方、代表取締役社長の西美砂子氏は〈“4K” をキーワードに、社内のシステム全体が「ファイルベース・ワークフロー」に対応できることが最大のポイントではないかと考えています。今後は、様々なファイル形式とフォーマットが混在する中で必要となる「変換」のニーズに対して、いかに時間を短縮しながらもクオリティを保てるかがポイントです。“ファイルベース”という新しいニーズに対して、会社全体としてお応えするサービスを継続できる環境が整ったと考えています〉と話している。

◇エクサインターナショナル 東京都港区赤坂 2-16-9 TEL 03-5575-3911

<http://www.exa-int.co.jp/>